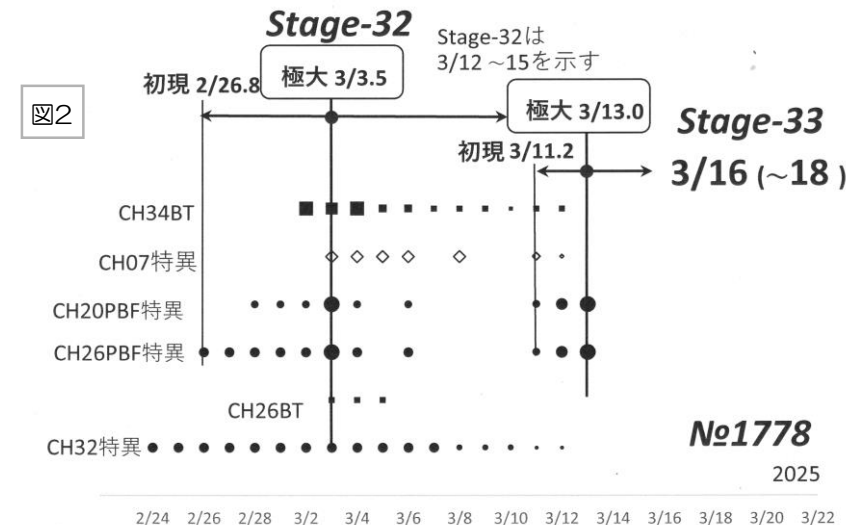
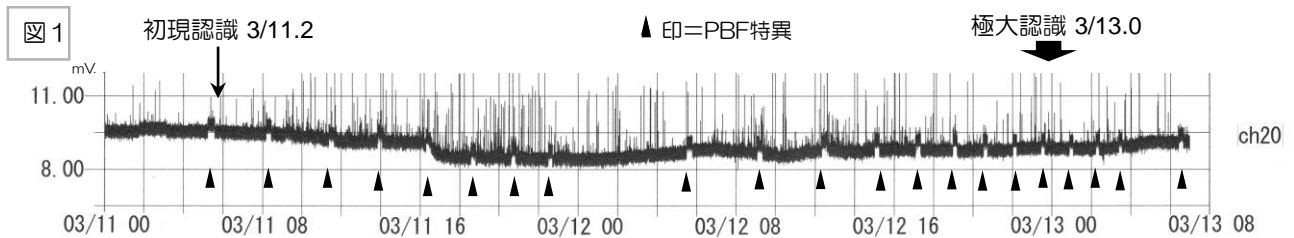


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、深海補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

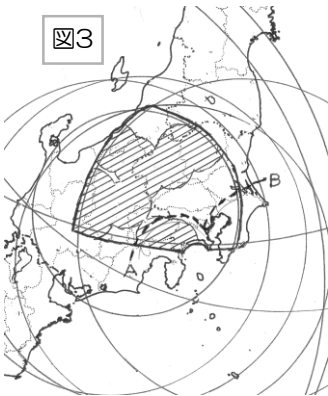
No1778長期変動 PBF特異 Stage-33極大認識 3/13.0極大 → 3/16を示す 3/16(～18)に極大が出現しない限り 対応地震発生の可能性有



◆3/12夕刻の情報では、PBF特異再出現をステージ32の直前変動又はステージ33の極大の可能性とし、情報配信時点までのデータでは3/11.8が極大の可能性となりました。そのため、本日3/13対応地震発生の可能性も否定困難であるとなりました。

◆しかし、図1のとおり、PBF特異は継続し、3/13.0付近が最も周期が短く出現している時間帯となりました。3/13.0極大認識です。PBF特異出現期間が長いため、ステージ32の直前変動ではないことが明らかです。

◆ステージ32は図2のとおり、3/12～15を示しました。これに対し3/13.0に極大が出現し、ステージ33に移行したと認識されます。明確なPBF特異は3/11の朝05時過ぎです。3/11.2初現、3/13.0極大の関係をT_{map}:T_{map}=20:13 経験則を使用しますと 3/16.3±2 が示されます。3/15以前の可能性は考えにくいので、3/16(～3/18)の可能性が有ります。約0.6倍毎にT_{map}日数が減少している様ですが、3/16に次の極大が出現しない限り、対応地震発生の可能性が有ります。



- 推定領域：図3の太線領域内＝大枠推定領域
図3斜線領域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3 または
複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で
約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性（群発的な活動の可能性も有）
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい
- 推定時期：3月16日(～18日)の可能性(左記時期に極大が出現しない場合)
※さらに修正が必要な変動が観測された場合は続報させて頂きます

- 推定地震：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3 (午前09時±2の可能性若干高い)
※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難

※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。